

ムダにムダを重ねる徳山ダム「導水路」はいらない！

## 導水路はいらない！愛知の会

2011年9月22日

名古屋市瑞穂区内浜町 1-15 加藤伸久方

TEL/FAX 052-811-8069

URL: <http://www.dousuino-aichi.org/>

会報 11 号

原告「意見陳述」への拍手を咎めることより、拍手を受けるような判決を出して下さい

### 8 / 25 (木) 住民訴訟・第 11 回口頭弁論が開かれる！

口頭弁論当日は、「徳山キャンプ」(8/20~21)を中止させた“長雨”も上がり、曇天日です。事前集会の冒頭、小林共同代表は「7/23 総会」成功のお礼と、県が検証を進める大村知事の共同公約「河口堰開門調査」にふれて情勢を報告しました。



次いで、河口堰を水源の「県水」使用の知多半島から、大府市の山田 忠善さん、半田市の宮崎 武雄さんらが、県が「導水路」を先取りの「水道料金値上げ」が議会で強行可決、「事業」中止で“引き下げ”をとる決意表明がありました。

法廷では開廷早々、裁判長が原告の林 秀治さん「意見陳述書」に記載の“拍手”記述へ、法廷規則を盾に過剰反応のハプニング。しかし、林さんはめげることなく、自然環境はこれ以上壊すな、税金は大切に使うこと、などと力強く意見陳述(P2~3収録)しました。

利水・維持流量でも 必要性が認められない 基礎事実の裏付けがない  
違法の主張は二本立て “設楽ダム一審判決がいう「原告主張」と「一日校長事件」

20人余が参加の「報告集会」では、原告側「第8・9準備書面」(同封)をテキストに在間弁護団長より、本件裁判の違法性判断の枠組みについてミニ解説(要旨は下記)がありました。

裁判所は、第8準備書面1(3)(イ)について、原因行為についての具体的な事実関係を適示して主張するよう求めています。

“著しく合理性を欠いている”は直観的な判断ではなく、判断基準を示したのが第8準備書面2「小田急高架化事件最一判」です。これは、設楽ダム一審では議論しておらず、控訴理由書から展開しました。導水路は、控訴理由を受けて主張しており、一審判決の論理だけでは破られないようになっています。



- |          |  |
|----------|--|
| P 1 ~ 4  | 8 / 25「導水路」裁判・第 11 回口頭弁論が開かれる！ (&原告陳述書、「主張」など)                                     |
| P 5      | 「導水路」裁判の屋台骨を支える原告弁護団メンバー 4 氏のご紹介 (上)   |
| P 6 ~ 8  | <b>投稿</b> * 河口堰開門への動き 愛知県「長良川河口堰検証」 ……近藤ゆり子氏<br>* 現場を見る学習会「長良川河口堰開門は可能か？」 ……武藤 仁 氏 |
| P 9 ~ 11 | マスコミ情報(「水」問題に関する新聞記事スクラップ)   |
| P 12     | 「イベント参加・裁判傍聴など 皆さまへお願い   |

次回(第 12 回)口頭弁論のお知らせー

10月19日(水)11時~名古屋地裁・1号法廷(開廷 30 分前から裁判所前で「事前集会」)  
原告・山田 忠善さんの意見陳述、準備書面のやりとりなど 閉廷後「報告集会」

平成 21 年（行ウ）第 49 号公金支出差止請求事件

原告 小林 収 他 91 名

被告 愛知県知事 他 1 名

## 意見陳述書

名古屋地方裁判所民事 9 部 御中

平成 23 年 8 月 25 日

原告 林 秀治

私はアジア太平洋戦争終結の 2 年前、1943 年に名古屋城を背後に仰ぐ商人街で生まれました。所謂ブレ団塊世代です。借家の生家は空襲で焼かれ、幼少期は駅西のドヤ街で育ち、40 年ほど前に春日井市に移り住みました。

私たちの世代、団塊世代も含めて昭和前半生まれは、民主主義制度のもとに戦後復興を成し遂げ、科学技術や経済を発展させ、物質的には大変豊かな国を築いてきました。私たちの世代には常に目標があり、努力と英知で次々と成果を出してきました。その意味で幸せな時代を生きてきたと思います。

しかし還暦を過ぎ、50 年近くの勤労者生活から年金生活に移り過去を振り返ってみますと、確かに私たちの世代は社会を大きく発展させてきましたが、同時に歪みという大きな過ちを犯してきました。

私はあと 10 年も生きられないでしょうから、自分さえよければと思えば何も気にすることはありませんが、そうはいきません。私にも子どもがいますし、孫もできました。やはり過ちを正さなければいけない。過ちは二度と繰り返してはいけない。そんな思いから私は本件の原告の一人となりました。

折しも 3・11 東日本大震災は社会の歪みを露呈しました。地震や津波は自然現象ですから、その発生を防ぐことはできず、歴史から学び、対策を立てることによって被災はある程度抑えることしかできません。しかし原子力発電所は人間が作った施設であります。従って地震に起因する事故であってもそこから発生するあらゆる事態や影響は、すべて人間のせいです。原発の安全神話は崩壊した、といわれますが神話とは作り話であり、ウソの塊でそれがバレてしまった。これはまさに事件と言わねばなりません。

原発の跡始末には数万年の歳月と膨大な費用を、命を危険にさらしながら子々孫々に負担させることとなります。自分のやったことは自分で責任を取るべきなのに、子孫に責任を押し付けるなどとはとんでもないことです。

さて、分野は異なりますが本件「木曽川水系連絡導水路事業」（正しくは「徳山ダム排水路」と言うべき）についても同様な問題があります。それは環境破壊と税金の使い方の問題です。

まず、前回まで十余名の本件原告が、夫々の立場から多面的に一市民・一納税者としての思いを訴えてきました。みな心底からの血の叫びです。

本件は民事訴訟ですので原告の言い分を聞くのは当然とはいえ、私のような無学で法律に疎い者でも意見表明の機会を与えて下さったことを感謝しつつ、原告だから仕方が無い。とりあえず「聞き置くか」で済ませないで頂きたい。

まず自然環境はこれ以上壊さないでほしい。壊した自然環境は元に戻してもらいたい。自然環境は先祖から譲り受けたものですが、子孫からの預かりものでもあります。私の若い頃の趣味は沢登りで、木曽川の源流の沢は殆どのぼりました。仕事に忙殺され体力も衰えたため、壮年になって溪流釣りを始め、久しぶりに深山霊谷に踏み入ると驚いた。あちこちにダムや砂防堰堤が造られているではありませんか。これでは溪流魚の生息域は寸断され、絶滅してしまいます。

昔沢登り中ワラジをかすめた魚はどこへ行ったのか。このことは里川でもいえます「うさぎ追いかの山 こぶな釣りしかの川・・・」。いまその小川は3面コンクリート張りとなって、小鮒どころかミジンコすら生きられない状態。

この例えは本件にもあてはまります。ある川の自然流をダムで堰き止め、他の川へ流し込む。まさに自然を冒瀆するもので、こんな施設は子孫に渡せません。川には夫々の特性を持った植生があり、動物の生態系があります。それらを無視した施設は自然破壊装置そのものです。

次に税金は大切に使ってほしい。借金は増やさず、減らす努力をすべきです。本件事業で890億円の費用が見積もられていますが、小さく産んで大きく育てる公共事業。実施されればこれの2倍・3倍になることは素人でも想像できます。

どこにそんなお金がありますか？この事業が本当に必要ならば借金も仕方がないでしょう。しかし水余りの上に自然環境を破壊する装置に税金をつぎ込むことは許されません。

私の住む春日井市の上水道は、かつて自然流や井戸水を利用していましたが、今は殆ど県水に切り替えられ、以前は冬暖かく、夏は冷たい水が年中生ぬるくまずい水になり、県水の値上げと連動するかのごとく水道料金は値上げされてきました。そしてまた値上げ計画が浮上しております。水道施設の耐震化費用が主な目的としていますが、本件の県費負担による県水値上げ想定額と奇妙に合致します。こうして必要のない公共事業のために、その負担は住民に押し付けられます。

行政訴訟にたいして裁判所は、その手続は法的に問題ないとか、行政権力の裁量の内だ、というという判決を時々されますが、本件についてはその前に、例えば地方自治法の第1条、或いは第2条14項を先ず念頭に置いて頂きたい。

いくら理屈をつけようと、その条項に合わないことは違法なのです。素人が法律の主旨に照らしてどうこう言うのは、釈迦に説法で大変失礼ですが、私のウップン晴らしとしてひといいわして貰いました。

本件は、住基ネット違憲や原発差し止め判決を下された井戸謙一さんに学び、市民・住民の思いを十分にくみとった子孫に誇れる判決をされることを切望し、私の意見とさせていただきます。意見表明をさせて頂き、ありがとうございました。付言ですが原告の意見陳述後の拍手を咎めることより、拍手を受けるような判決を出されることを切に望みます。

## **主張** 設楽ダム一審判決を乗り越えるために…違法判断の在り方をめぐって

(文責：共同代表 小林 収)

### 1. はじめに

8月25日の第11回口頭弁論において、裁判長から原告弁護団に対して、住民訴訟における違法判断の在り方について論点を整理して準備書面を出すように要請がありました。弁護団はすでに準備に入っていますが、弁護団と原告団との認識を共有したいと思い、原告としてまとめてみました。

### 2. 違法判断の在り方についての被告の主張

この問題についての被告の主張は、設楽ダム裁判でも導水路裁判でも全く同じで、次のとおりです。

本件のように、財務会計行為(支出)の違法の理由が財務会計行為自体になく、財務会計行為の原因となる先行行為(註：設楽ダム裁判でも導水路裁判でも基本計画、事業実施計画とその根拠となるフルプランや河川整備計画)にあるばあいにおいては、支出の違法性は、原因となる先行行為の違法性を承継したものである。本件のように、原因となる先行行為が行政計画であるばあいには、行政に大きな裁量権が与えられているので、計画が法の手続きに則って策定されていればよく、著しく合理性を欠いているという高度の違法性がなければ問題は無い。よって、本件支出には違法性はない。

### 3. 設楽ダム一審判決が示した判断

この点につき、設楽ダム一審判決は、次のように判断しました。

「本件においては、設楽ダムの建設費に係る愛知県の負担金について被告(中略)が行う支出が財務会計法規上違法と評価されるか否かが問題となるものであり、この点を判断するに当たって、設楽ダム基本計画が著しく合理性を欠き、そのためにこれに予算執行の適正確保の見地から看過し得ない瑕疵が存するか否かを検討する必要がある。」

これは一見、上述の被告の主張と似ていますが、支出の違法が問題となるのであって、その判断のために原因となる先行行為(設楽ダム基本計画)に瑕疵があるかを検討すると言っており、原因となる先行行為の違法が承継されるとしてない点で決定的に異なります。この裁判所の判断は、明らかに「一日校長事件」の判例を意識したものです。そして、被告の支出自体の違法が問われるとすれば、原因となる先行行為の瑕疵の有無の判断も、論理上当然に、被告の支出行為時の事実によることになります。

### 4. 河川管理者の裁量権の範囲について

しかし、設楽ダム一審判決は、設楽ダム建設の諸目的について、「著しく合理性を欠いていて予算執行の適正確保の見地から看過し得ない瑕疵が存するか否かを検討」した結果、河川管理者の裁量権を認めて、「設楽ダム基本計画が著しく合理性を欠く」とは言えないと、結論づけてしまいました。

そこで、原告弁護団は、導水路裁判においては、「小田急高架化事件」の判例を根拠に、行政裁量権行使における違法性の判断基準として、重要な基礎とすべき事実が欠けていたり、事実に対する評価が明らかに合理性を欠いていたり、本来考慮すべき事情が考慮されなかったときは、社会通念上著しく妥当性を欠くことになり、裁量権を逸脱したことになると主張しています。

原告として主張してきた、利水計画の需要想定の実績事実との大幅な乖離や、成戸地点での50m<sup>3</sup>/s必要とされる河川維持流量の根拠の無さは、まさに上のに該当するものです。

### 5. 支出差止住民訴訟の意義

もう一点、本件訴訟は、損害賠償請求を求めるものではなく、支出の差止を求める裁判であることを確認しておきたいと思います。知事や企業庁長に支出に先立って必要な調査をすることを求めるのではなく、原告の側で口頭弁論終結時まで、判断の基礎となるべき事実を積み上げ、積み上げられた事実に基づけば、「県民に損害を与えるムダがあるから、支出を止めよ」という判断を裁判所に迫る闘いです。

# 「導水路」住民訴訟・裁判の屋台骨を支える 原告弁護団メンバー 4 氏のご紹介（上）

大変お待たせしました！

本件裁判について、文字通り“手弁当”で法廷闘争を担っていただく 4 人の弁護士さんの横顔などをご順不同でご紹介したく、各弁護士さんにあて下記の設問項目を送付、回答をいただきました。

## < 事 務 局 か ら の 設 問 項 目 >

- …… お名前（ふりがな）と所属事務所
- …… 出身地はどちらですか？
- …… 弁護士になられて何年ですか？（なぜ、このお仕事を選ばれたのですか？）
- …… 導水路裁判に関わるきっかけは？（この裁判を担当されての感想などありましたら）
- …… 趣味などご自由にお書き下さい。



在間 正史 弁護士（ざいま まさし）

在間伊藤法律事務所

三重県津市の生まれです。直ぐに海岸で、砂質干潟が広がっています。1976 年ですから、もう 35 年になります。（1970 年代前半は公害が大問題であり、公害問題を扱う弁護士になろうと思ったからです。司法修習生時代の長良川河口堰との出会いが、川と環境をテーマとすることを決定づけました。

長良川河口堰、長良川安八決壊、徳山ダムと続いてきた木曽川水系の水問題に残された最後の問題だからです。（もう、私も長くないので、若い人たちに 30 年で培ったものを承継したいと思っています。）

今は遅くなりましたが、走ることです。最高記録 2 時間 37 分 20 秒と別大マラソン 39 歳～50 歳 12 年連続出場が誇りです。後は、環境問題の現場とデータの問題点を読み取って資料整理をすることでしょうか。



濱嶋 将周 弁護士（はまじま まさちか）

名古屋南部法律事務所

名古屋市（実家は西区浅間町交差点近くのガソリンスタンドです。お近くにお寄りの際は是非ご利用下さい（笑）。）

7 年が経とうとしています。

小さな頃から漠然としたあこがれはありましたが、学生時代、日本全国を旅するアウトドアサークルに所属し、各地の環境事件の現場を目にし、そこで先頭に立つ弁護士とお会いしたことで、思いを強くしました。

設楽ダム弁護団に加わり、在間学校に入学したためです。

被告には、もう少しともに、原告の問いに応えてほしいと思います。

男の子ばかり 3 人（内 2 人は双子）の父親です。にぎやかすぎる毎日です。



# 河口堰開門への動き - 愛知県「長良川河口堰検証」 -

徳山ダムの建設中止を求める会  
事務局長 近藤ゆり子

9/13・毎日新聞・朝刊

**長良川河口堰**  
**「開門5年以上必要」**  
**愛知専門委が調査提言へ**

長良川河口堰（三重県桑名市）の開門調査の是非を審議する愛知県の専門委員会は12日、「5年以上の開門調査が必要」との提言を報告書に盛り込むこととで合意した。ただ、開門調査には流域の岐

早、三重両県の同意が不可欠で、実現できるかどうかは不明。三重県の鈴木英敏知事は同日、開門に否定的な姿勢を示した。

これまで「1年以上」としていた開門調査期間について、「季節ご

との環境変化を把握するには少なくとも5年以上が必要」との意見が出され、了承された。

国土交通省や水資源機構、愛知、岐阜、三重各県と名古屋市中

開門すれば上流部の水道水、工業用水の取水が困難になることについて、専門委は「木曾川水系への水源の転

用などでもかなうことは可能」としたものの、具体的な代替水源や費用負担は明示しなかった。

鈴木知事は12日、「開門すると海水が遡上し、塩害がでたり、工業用水や水道水を取れなくなる。河口堰は必要な施設だと考えている」と述べた。

一方、大村秀章愛知県知事はともに開門調査をマニフェストに掲げた河村たかし名古屋市長は同日、「河口堰

6月、愛知県は有識者による「長良川河口堰検証」プロジェクトチーム（PT、委員5名）を発足させ、長良川河口堰に対して賛否さまざまな立場の方々から公開ヒアリングという形で意見を聞いた（公開ヒアリングは4回、陳述者11名）。

初回の公開ヒアリングで意見を述べた富樫幸一・岐阜大教授の「木曾川水系は水余り」とする資料に対して、国交省中部地整が「事実誤認」と噛みつくなど、国・水機構も巻き込んで議論が盛り上がっている。

7月にはPTの下に専門委員会（委員8名）が設けられ、科学的な面から開門に関してハードな日程で議論を重ねてきた。9月12日の第8回専門委員会では「開門調査」に踏み込んだ報告書の原案が審議された。9月21日に文案を確定し、1ヶ月間パブリックコメントにかけられる。

このPTや専門委員会委員及び公開ヒアリング陳述者、専門委員会でのリソースパーソンには、これまで「愛知の会」総会や長良川市民学習会で講師を務められた方も多々おられる。また毎回傍聴者発言の機会もあった。

これまで「河口堰反対派の集会」と括られた場面でしか聞かれなかった発言が、公開の場で語られることに一種の感動を感じる。

この展開は1年前には予想できなかった。昨年秋、名古屋で開催される生物多様性COP10に向けて、全国の、そしてこの地域の環境市民団体が動いた。当会も「市民による『豊かな海づくり』実行委員会」に参加し、COP10会場内外で長良川河口堰の開門を訴えた。

そしてこのCOP10の市民的盛り上がりがあって、今年2月の「トリプル選挙」の共同公約に3つの環境問題が上がった。

長良川河口堰開門調査、導水路見直し、設楽ダム見直し。この「河口堰検証」は共同公約実現にむけた第一歩だ。

徳山ダムに係る連絡導水路（木曾川水系連絡導水路）は、2007年に突然に発表された「上流分割案」で長良川河口堰の問題と具体的に結び付いた。偶然ではない。

長良川河口堰・徳山ダム・導水路は、「三位一体」で構想されてきた。



そして導水路計画は「木曽川水系の水資源開発は正しかった」「全ての水資源施設が必要だ」という強弁の上に成り立っている。つまり長良川河口堰の開門は、長良川の河川環境を改善する（復活に向けて踏み出す）だけでなく、導水路計画を中止に追い込む重要なステップになる。

愛知県の「長良川河口堰検証」プロジェクトチームが明確に「開門調査」を打ち出したとしても、実際に開門に至るには幾つものハードルが待ち受けている。それを乗り越えるのは「河口堰のゲートを上げよ!」「誤った『公共事業』は誤りと認めよ」という一人一人の市民の粘り強い声と動きであろう。

「最低5年以上」

愛知県PT委、報告書案

上」としていた。しかし、環境の変化をみるためには、もっと長期間が望ましいと判断。1年ごとに区切って評価していく案を検討することになった。

協議機関設置は、国や流域の三重、岐阜などとの調整を促す狙いがある。三重県の鈴木英敏知事が12日、記者団に「長良川河口堰は必要なもの」と慎重な姿勢

また、協議機関の下部組織として、調査項目の検討や調査結果の評価を担う「長良川開門調査専門委員会（仮称）」を設けることも盛り込まれた。

大きく変わるため、1、2年程度の予備調査で季節ごとの状況を調べる。

専門委は21日の会合で報告書をまとめ、県民からの意見を募ったうえで、10月下旬にP.T.Tに報告する。

(佐藤恵子)

2011.09.13 朝日新聞

## 「長期的な開門可能」

愛知県専門委 報告書案を審議

長良川河川堰(せき)  
 三重県桑名市一の開  
 門調査の可否に関する専  
 愛知県有識者会議の専  
 門委員会は12日、塩害  
 防止策と代替水源を確  
 保できれば「長期的な  
 堰開放が可能」とする  
 報告書案を審議し、調  
 査実施の方向性に概ね  
 合意した。

この日、全体像が示された報告書案は▽環境▽利水▽治水・塩害▽費用負担の4項目について、環境建設の影響を検証し、「一門調査が「環境改善」になる可能性が極めて高い」と指摘。ただ、開門すれば堰上流部から取水する長良導水（愛知県水道）、中勢水道（三重県水道）など二部への塩水流入は避けられないとして、木曾川水系への切り替えや既存水利権内の融通を代替案に挙げている。

また、地下水や土壌への塩害も否定できないとして、上層取水や堰の一時的な閉鎖など

のための予備調査を行う案が出たほか、後援（しゅんせつ）による治水への評価など意見が割れる箇所もあり、21日に再度会合を開いて集約を図る。有識者会議は専門委の報告書を基に、大村秀章知事へ最終報告する。

堰の開放を求める市

されなかった。専門家がオーブンに議論する場ができたとはいえない」と開門調査に前向きな議論を歓迎する。一方で、開門に慎重な姿勢を示す委員の藤田裕一郎岐阜大学流域圏科学研究センター長は「水源の代替は地域へかなりの負担を強い

2011.09.13 岐阜新聞

る。単に代替があればいいというものではない」と発言。農地への塩害を懸念する海津市や水利権の一部を持つ三重県などからは、すでに開門反対の声も上がっている。

2011.09.13 岐阜新聞



愛知県で長良川河口堰の検証が進む中、「導水路はいらない！愛知の会」と「長良川市民学習会」は共催で「長良川河口堰開門は可能か？」と題して9月5日に現場を見る学習会(バスツアー)を開催しました。当日は、紀伊半島地域に大きな災害をもたらした台風の直後で長良川の水量も多く、河口堰のゲートは全開でした。

今回の学習会の目的は、河口堰を開門した場合、利水(農水、工水、上水)で困ることが起こるのか現場を見て考えることでした。

農業用水では、遡上する塩水による高須輪中の長良川用水の塩害問題です。勝賀取水口を見学し、車窓から堤防にそって作られた承水路や立派に整備された農地の状況を見ながら在間弁護士の解説で塩害発生論の非科学性を確認しました。

工業用水については、木曽川大堰・木曽川総合用水管理事務所の見学と岐阜大学の富樫先生の解説で木曽川の水で十分間に合っている。それどころか使う当てがない工水がたくさんあることを学びました。

そのあと北伊勢工水の長良川第一取水口と東名阪自動車道鉄橋にそって架けられた大口径の工水水管橋を見て回り、長良川の水を工業用水に使う必要は全くないことを再認識しました。

水道用水では知多半島に導水する長良川導水を取水口から見学しました。この導水ルートは名古屋港の海底トンネルを通して知多半島にわたります。私たちは伊勢湾岸道路で名古屋港を渡り、導水管が知多半島で地上に現れる現場を宮崎さん(知多地方において河口堰反対で活躍)の案内で見学しました。「長良川の水がこんな風にして知多半島に来るのか！」参加者一同驚きの声。

最後の見学地は知多浄水場でした。浄水場は丘の上にあり、愛知用水の貯水池である佐布里池のすぐそばでした。場内見学は職員の「厳しい管理」下での案内で進められました。この浄水場では管理棟を境にして上水と工業用水の浄水が行われています。

河口堰が完成して上水の水源が木曽川から長良川に変えられてから給水住民から「まずくなった」という声が大きくなり、この浄水場には活性炭を投入する大きな施設が建設されました。しかし、おかしなことに県当局もこの現場職員らも「まずい水の発生」を認めようとせず、活性炭投入は「末端給水の残留塩素低下防止」のためと力んで説明しています。ところが私たちに配布してくれた小学生向け見学案内には、

「<sup>かつせいたん</sup>活性炭<sup>せつしよくち</sup>接触池：川から取り入れた水に<sup>かわ</sup>においがあるときに<sup>かつせいたん</sup>活性炭<sup>い</sup>を入れて<sup>いけ</sup>まぜる池です。」

と記述されている。?????子供には嘘をつけないようです。なお、この浄水場の工水の水源は佐布里池(愛知用水)の水です。

河口堰開門で直ちに影響を受けるのは知多半島への上水道の導水です。しかし、水源を木曽川大堰の水に戻すことは物理的に何も問題はありません。水利権についても、愛知県が使う当てのない工業用水の水利権を転用する決断で問題は解決します。

現場見学を終えて、改めて堰開門は可能であることを実感しました。ゲート閉鎖から16年。長良川的环境悪化は深刻です。愛知・名古屋はCOP10・愛知ターゲットの精神で、速やかに河口堰の試験開門を主張すべきです。





一県で長良川河口堰の開閉調査の事だ」委員会をやっている。市長の見解は、

国会議員のいひからいへば「河口堰は弊害がなかり」と言ひてきた。せめて開門してはどうか。損害と言ひながら、信じてゐるものゝね。

一國や三重県は積極的なものではないが、なが

敬老パス仕分け **市民の意見大事にする**

して実施する事業は什  
 一 職場への不満を把  
 一 議会の解散請求  
 鉢呂経産相  
 任 **気をつけて話さんと**  
 辞 けの意義や目的は、  
 無作為抽出の市民の  
 皆々がどういう気持ち  
 ちで判定されるが、虚  
 心燃焼（たんかい）に  
 聞いてみたい。千百  
 事業を全部やっても  
 いが、時間と予算の制  
 約もある。  
 一 敬老パスの維持を  
 公約に据けていたが、  
 市民の判定と食いが違  
 ったときはどうする  
 かね。

握するためにアンケ  
 ーを実施すると言っ  
 ていたが、具体策は、  
 幹部会で指示した。  
 二万六千人の全職員に  
 アンケートを取る。わ  
 しに対する批判がない  
 一 不利益にならない  
 ような仕組みを考え  
 一 東日本大震災から  
 半年が過ぎた。  
 名古屋では一人も犠  
 牲者を出さないとい  
 ね。

（リコール）の署名簿  
 流出の調査は、  
 二人の請求代表者を  
 中心にやっている。  
 一 鉢呂吉雄さんが発  
 言の責任を取って経済  
 産業相を辞任したが、  
 訊わからぬ話、鉢呂  
 さんは反原発だった  
 気がするけど、気をつ  
 けて読んでほしいかん  
 ですね。被災者の皆  
 さんも大変ですが、

工業用建設なら数百億円

具体的計画は未定

長良川河口堰（三重県桑名市）で最大の水利権を持つ県が工業用水を取水する導水路を建設した場合、数億億円規模を見込んで、これが県への取材で分かつた。県が現在使用しているのは水道水の一部分など水利権全体のわずか25%で、工業用はゼロ。河口堰をフル活用するためには巨額な財政負担が新たに必要で、行政を監視するオンスマンは「先に建設ありきで、止まない公共事業の典型だ」と批判している。

（島崎峻生）

## オンブズマンが批判

県が保有する水利権は毎秒二・二五ト。このうち、実際に使われているのは知多半島向けの水道水として二・八六トだけ。この水道水を供給する長良導水（四・八キ）の建設には、百七億円かかった。

県は今のところ、工業用導水路の具体的な建設計画は立てていない。水を大量に使つ織機を持つが、一滴も

## 名古屋

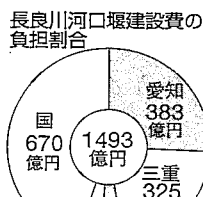
長良川河口堰では名古屋市も水道利用の目的に毎秒二トの水

名古屋市は154億円  
17年度まで

<p>大きく下回つてゐたので、既存の工業用水ですら水余りの状態が続いている。ほとんど水を使わない堰に多額の税金を使うことに今後、県民の批判が高まるのは必至だ。</p>	<p>河口堰の県の建設費負担は三県一市の中で最も多い三億八千三億円。利息分を含めると二〇一七年度までに計七億八千二億円を払い続ける計算で、これとは別に堰の維持管理分として年間三億円を負担している。県は「将来を見越し、渇水時で</p>	<p>す。」「と必要性を主張する。」</p>	<p>河口堰をめぐるのは、県が設置した有識者会議が開調査の是非を協議中で、この中でも水需要の過大予測が問題にされていた。全商</p>
<p>市民オンブズマン連発</p>	<p>市市民オンブズマン連発</p>	<p>市市民オンブズマン連発</p>	<p>市市民オンブズマン連発</p>



長良川河口堰 河口から5・4地点の三重県桑名市に水資源開発公社（現・水資源機構）が149・3億円かけて建設。1996年7月6日に全ゲートを開け、本格運用を始めた。治水と塩害防止、利水が目的。翌知、三重県と名古屋市中区で毎秒22・5立方メートルの確保を確保したが、建設から16年を経ても、使われる率は全体で16％しかない。維持管理費には年間10億円かかる。



名古屋55億円 岐阜60億円  
※億円以下は四捨五入

知事會見

**詳報**

「長良川河口堰（せき）の開門調査を検証する専門委員会が『五年以上の開門』を求める報告書案を固めた。最悪な解があるはず。現状のままで固定に据けたが、一人で力を

## 最適解を求める

9 / 14 · 中日新聞 · 朝刊

長良川河口堰

愛知県PT委  
岐阜・三重の影響言及  
報告書まとめ

愛知県PT委  
報告書まとめる

長良川河口堰の開閉調査に向けた愛知県への検証プロ  
ジェクトチーム（PT）の下部組織にあたる専門委員  
会は21日、報告書をまとめた。長期間の開閉をはつて  
りと求める内容で、報告書をもとにして国や岐阜・三  
重両県なども巻き込んだ議論を進めたい考えだ。

報告書の説明会を開くこと  
も検討する。

報告書では、岐阜や三重  
と調整するにあたっての課  
題にも言及した。三重では  
一部施設で「水不足」がこ  
そわっている。

## ■報告書の骨子

- 【河口堰の検証】
- ・河口堰では、計画の約16%しか水を使っておらず「水余り」になっている
- ・河口堰の完成後、生物の生息環境に悪影響があった
- 【開門の効果】
- ・ヤマトシジミの生息域が河口堰周辺で広がる
- ・サツキマスが増えることが期待できる
- 【開門調査に向けて】
- ・開門調査の期間は少なくとも5年以上
- ・愛知県が持つ岩屋ダムの水が河口堰の代替水源になりうる
- ・国や関係自治体、漁業関係者などを入れた協議機会の設置を提言

とくにも掲げた義禁公約。実現には国や岐阜・三重の同意が必要だが、そのめんどは立ってこない。

大村知事は21日、「運用開始から16年がたったが、何の検証もせず、現状のままにやるのが最悪とは思えない。塩害、環境面と様々な論点が出ていゝなか、意見を聞きながら答えを探っていくたい」と話した。

# 開門調査は前途多難

## 岐阜、三重の反発必至

専門委の人选に偏りも

# 河口堰報告書

長良川河口堰（三重県桑名市）の開閉調査の可否を検証する愛知県庁の専門委員会が二十一日、ゴーサインを出す報告書をまとめた。背景には、わずかししか使わない水のため巨額の負担が続く愛知県や名古屋市の「水余り」の現状がある。だが、こうした自線は「都市部のエコ」とも映りかねず、開門の実現に必要な較量、三重県側の同意取り付けは困難が予想される。

（島崎論生）

二分を含めると、愛知県と名古屋市で事業費の半分を負担している。より良い運用に向けた最適の解があるはずだ」と訴えた。

## ■塩害への影響

河口堰建設では、毎  
秒二・五立方メートルの取水が  
可能になった。だが、  
企業の節水対策などが  
進み、十六年たつても  
実際の取水量は、その  
わずか16%。名古屋市  
水道用排水や県の工業  
用水にはまだ二滴も使  
われていない。  
建設費千四百九十三  
億円のうち、愛知県は  
月の定例会見で「金利

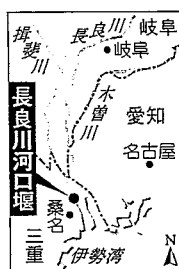
堰を運営する水資源機構や国が、開門を拒む理由は、堰営への懸念だった。治水目的で上流の河床突起部をしゅんせつし、塩水が遡上するのを防ぐために、開門などの操作を行うとしていた。

「堰営があった場合、後藤昌宏社長（金こも）誰が補償してくれるのの心配する。」開門調査の実現には、建設費を負担した岐阜、三重両県や、水

開門への理解は得られないだろう。

■ 見通しの甘さ  
公開ヒアリングに招かれた赤須漁業協同組合（三重県桑名市）は建設段階の見通しは甘過ぎた。こうした歴史を重く受け止めた塩害の懸念を払拭しない限り、関係者の同意は得られない。報告書作成を実現性のない

者会議が検証が適切だったかを検討した上で、国交相が判断を出すのが、建設中止を明記した民主党マニフェスト（政権公約）との整合性もあり、最終結論は



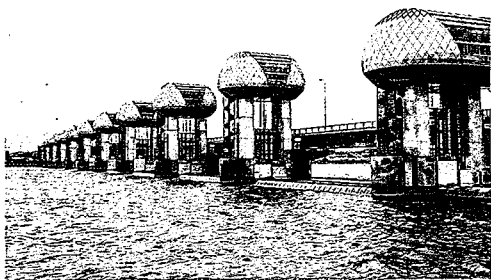
### 長良川河口堰建設費の負担割合

愛知	383	億円
三重	325	億円
岐阜	60	億円
名古屋	55	億円
国	1493	億円
	670	億円

※億円未満は四捨五入

専門委がまとめた報告書の骨子

- ・堰の直上流にある長良導水、中勢水道、北伊勢工業用水は、岩屋ダムの余剰水や他の用水からの転用で、ある程度可
- ・塩水がどこまで遡上するかは不明だが、既に侵入が阻止されているところもある
- ・開門の予備調査と本調査を一本化し、少なくとも5年以上行う。2012年度の計画検討が望ましい。毎秒800ℓ以上の出水時からゲートを開閉し、堰の上流部で塩分濃度が基準を超えたら、閉鎖などの操作を行う
- ・開門後は、堰付近の水質や川底の土壌を調べ、シジミやアユ、サツキマス、水草などを観察する
- ・河川管理者や施設管理者、関係自治体、漁業関係者、県民・市民が参加する「長良川河口堰開門調査協議機関」（仮称）を設置。下部組織として専門委員会も設ける



開門調査の実施に向けた報告書がまとめられた長良川河口堰＝三重県桑名市で

客観的に議論した  
小島敏郎・専門委員  
同座長の話。できるた  
け客観的、常識的に議  
論できるよつ心がけ  
た。真ん中に寄つて議  
論できたと思う。皆さ  
んの意見を一つのスト  
リーとして理解しや  
すいものには理解し  
またいろいろな人の意見  
を聞く必要がある。説  
明会の要旨があらうて日  
程が合えば、何度か開  
きたい。  
知事の公約を意識  
今本博健 専門委員  
同座長の話 開門あり  
きの議論ではなかった  
が、少々々々々 大村  
知事のマンフェストを  
ものに始つて委員会  
だと意識した。塩水  
はかんがえ用水の取水  
い。

---

9/22・中日新聞・朝刊

県民の声を見守る  
大村秀章知事の話  
専門委員会が精力的に  
報告書を手こめていた  
だいたいに感謝した  
い。県民からのパブリ  
ックコメント募集は  
これからなので、それ  
を見守りたい。河口環  
の建設から十六年間、  
現状を固定し、何も見  
直さなければいい。運  
とたは思えない。運  
用の在り方で最適の  
解があるはずだ。岐  
阜・三重両県知事に  
は、専門委から報告書  
を説明させること知ら  
せ、了承を得た。説明  
を聞いていただけたと  
思う。

「ハツ場ダム建設有利」

国交省、コストなど評価

国土交通省関東地方 討の場を東京都内で 的な評価結果とし  
整備局は十三日、ハツ 開き、洪水調節や新規 も有利」とする検  
場ダム（群馬県）建設 利水面の代替案に比 果を提示した。河  
の是非を検討する「検 べ、ダム建設が「総合 惨などに比べ完成

て最  
証結  
川改  
まで

---

国交省有識者会議に  
よる検証の基準はコス  
トを最重視。整備局の

害を喰ひ、治水面はダムを中心として対策策を以て中心とし、河川は八丁三節門で、川底を掘り下げたり土砂利用を規制するなどの水利政策を組むのち、四害策を組むのち、四害より安く、用地費収入などが必要は、案より十年後に最も事業の効果が見込める。

水利対策も建設のコストが六千億円と極めて低く、水利関係は必ず必要とする水量も、年毎に確保できるとした。

# 河口堰開門 専門委の判断

## 塩害起きる？ 洪水対策は？

愛知県による長良川河口堰の検証で、有識者でつくる専門委員会が21日にまとめた報告書は、大村秀章知事が公約に掲げた「開門調査」を踏まえる内容となっている。開門調査の効果や開門後、調査実施に付した諸問題を、専門委員は4項目に挙げる。『塩害』『治水』『環境』『利水』の4項目について、報告書の内容に沿って、各項目を紹介する。(三井信夫 長瀬大樹)

### 「塩水が遡る可能性も」

開門すれば、塩分を含み海水が川を遡り、上流の地下水や土壌に侵入する。農業用水の塩分濃度が高くなる塩害が起る可能性はないか。

答 河口堰の運用後、洪水対策として、より多くの水が流れるようになるため「マウンド」と呼ばれる堰上流側の山形の高くなった場所を掘り下げる工事が行われました。このため、開門すれば、それまでマウンドで

止まっていた塩水がそこを流れて、開門が起ることで

問 堰の運用が山形を掘り下げることで、洪水被害が軽減されるのではないか。

答 堰の目的の一つは、地形の都合で上流に水を運ばない長良川の洪水対策。大雨などで増えた川の水をマウンドで堰きため、川底を掘った場所「マウンド」を通る必要があり、それと合わせて堰を運るこ

うのが、開門に慎重な立場の背景です。水資源機構は「開門すれば、河口から30キロ近まで塩水が遡ると主張しています。これに反し、専門委員は「塩水が遡るおそれはない」といっています。開門調査を実施するにあたっては、塩害対策の必要性を指摘し、また、具体的な対策を講じる必要がある。専門委員は判断を要しない」といいます。

開門調査は当初、「塩害は回避できる可能性が高い」としてまとめたが、最終的には塩

水が遡る可能性は否定できない」と修正。地下水や土壌に塩水が侵入する可能性について、専門委員は「塩水の遡り距離は1キロ程度、被害が生じる恐れもある」といっています。開門調査を実施するにあたっては、塩害対策の必要性を指摘し、また、具体的な対策を講じる必要がある。専門委員は判断を要しない」といいます。

### 治水効果には疑問

と、塩水の遡りを防ぐというものです。海城の関係者から話を聞いた公団の担当者では、「長良川の河口開門は、塩水被害を未然に防ぎ、2004年10月の台風3号で、上流の三重県四日市(桑名市)に大きな被害はな

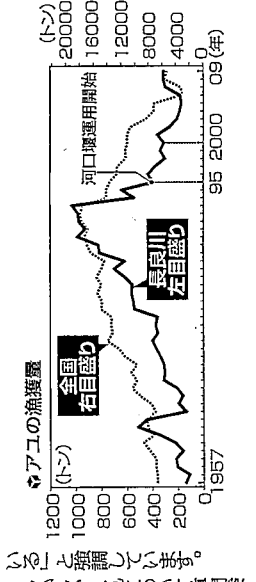
昔より洪水の不安が減った。治水効果の向上を証する言もありました。

一方、専門委員は報告書で、堰本体の掘削時、地盤が下がり、川底が深くなり、長良川には十分な水量を流すだけの能力があった。新たに川底を掘る工事は不要だった」といっています。掘った場所は、厚い土砂がたまり、川底が上がり、と指摘しています。

### 生態系変化「堰が原因」

問 堰ができたことで、川の環境が悪くなったのか。また、開門することで、水質や生物の生態環境が改善されるのか。

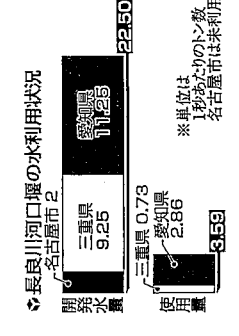
答 大きな構造物によって、川の流況を大きく変える以上、水質や生物の生態環境が変化することは避けられませんが、堰の運用後、川や周辺の生態系が変わり、アユやシジミなどが減って、地味な魚も減る影響を及ぼしたとの指摘があります。堰を運る水資源機構は、アユを放流したり、稚魚を放流したり、堰の影響を最小限にとどめる取り組みを進めており、継続的に進めている調査の結果として、一種魚が順調に川を上って



### 取水わずか16%「水余り」

問 堰の上流で愛知県など取水している水道水や工業用水には、どんな影響があるのか。

答 愛知・三重県と名古屋が、淡水化された堰の上流で、水道水と工業用水を取る権利を持っています。計画の上では、3県市で1秒あたり計2.5立方メートルの水が利用でき、実際に使っているのはその16%に過ぎず、名古屋市内で現在、まったく使われていません。報告書では、これだけの水を、水道水や工業用水はすべて使うことを前提に算定計画は立てられ



れており、使わない水のために、自然体の負担が生じている」と問題視しています。国や愛知県は、近年は雨が少

ない傾向もあり、大増水に備えるためにも、安定的に供給できる河口堰の水が確保と主張していますが、専門委員は「運用から16年がたっているのに、これだけしか使われていないのは、明らかに水余りだと指摘。さらに、水道水は、できるだけ上流のきれいな水を使っていきたい」といいます。

一方、堰を開けば、堰の上流に塩水が上がることは確かであるため、報告書でも、開門調査を実施するために、堰に代わる別の水源を確保することを提議しています。これは、今の水利用のルールを大きく変える必要があり、国や自治体同士の調整など難しい問題は残っています。

長良川河口堰をめぐる主な経過	内容
1960年1月	長良川河口ダム構想を発表
68年10月	木曽川水系水資源開発基本計画(フルプラン)策定
71年12月	河口堰建設の基本計画が閣議決定
76年9月	建設に着手
78年9月	開門人財で建設(安八水場)
88年2月	河川法改正で開門に同意
90年12月	流域の全協議が暫工
95年7月	地本体工事の着手
97年7月	北川石炭・開門戸長官(当時)が建設に賛同を要する
98年4月	全グループの運用を開始
2004年6月	堰上流のしゅんせつを完了
11年2月	愛知県の知多半島、三河県中野地堰への取水開始
11年2月	フルプラン全部変更
4月	開門調査を公約に掲げた大村秀章氏が選出
6月	知事選で初当選
9月	運用を開始
9月	後継作業による独自の開門調査を公約に掲げた大村秀章氏が選出

## イベント参加・裁判傍聴など 皆さまへお願い

自然エネルギー施設見学会 「阿寺溪谷を愛する下流市民の会」主催  
10/1 メガソーラいいだ&中央構造線・大鹿村博物館見学会

<問合わせ先:「阿寺溪谷を愛する下流市民の会」事務局(加藤宅 052-811-8069)>



“世界一危険”な浜岡原発の「永久停止・廃炉」と、自然エネルギー、再生エネルギーの普及の旗を掲げて取り組みを進める「阿寺の会」では、10月1日(土)に中電「メガソーラいいだ」と、台風12号で大規模な被害を引き起こした「深層崩壊」の多発地帯・中央構造線の展示施設「大鹿村博物館」への見学会を企画しました。

\*日 程:8時半~16時半(名古屋市役所本庁舎前発着)

\*参加費 5千円(マイクロバス、昼食、資料代を含む)

上流と下流市民をむすび、森の手入れを! 「恵那山みどりの会」主催  
10/15 上流と下流市民をむすぶ「森とのふれあい体験」

<問合わせ先:「阿寺溪谷を愛する下流市民の会」事務局(鈴木宅 0561-39-1657)>



今年は「国際森林年」、「みどりの会」は、中央アルプスの南端・恵那山で8年前から東濃森林管理署との協定のもと、下流に住む人たちと共に「ゆたかな緑と水をはぐくむ森づくり」を続けています。

\*10月15日(土)10~16時 湯舟沢国有林(通称「大松の森」)

間伐体験、餅をついて昼食、ハイキング、おもちゃ作りなど  
大人1000円、こども500円

\*16時~翌朝10時 宿泊交流会(萬岳荘、希望者のみ)

まちじゅうが博覧会会場 「長良川温泉泊覧会実行委員会」主催  
2011年10月の一ヶ月間 長良川おんぱく(長良川温泉泊覧会)

<問合わせ先:「長良川」おんぱく事務局(長良川温泉旅館協同組合 058-269-3858)>



岐阜県「明日の宝もの」の認定を受けた川原町を中心とした、長良川温泉エリアには魅力が満載です。“岐阜の本物に出会える100の小さな旅”「長良川おんぱく」(岐阜の自然を満喫する など)は長良川と岐阜のまちをこよなく愛する、富樫・岐阜大学教授が実行委員に加わって、皆さまにお勧めのビッグイベントです。

詳しいことは、HPで「長良川おんぱく」を検索、または「おんぱく事務局」までお問い合わせを!

建設費2070億円の設楽ダムは中止し、東北大震災の復旧復興に回せ!  
12/13 「設楽ダム」控訴審・第5回口頭弁論

<問合わせ先 「設楽ダムの建設中止を求める会」事務局(奥宮宅・Fax0532-54-7305)>



「設楽ダム」は現在、検証・凍結扱いですが、現地設楽町では、町長が懇意の土建屋によるダム関連工事が始まっています。

一方、「設楽の会」はカンパを募り、ダムサイト予定地の地質地盤調査を委託。“ダム建設は、大規模な岩盤崩壊(深層崩壊)や水漏れ、さらには設楽町の中心街・田口地区の地下水に異変を引き起こす恐れがある”ことが中間報告されています。

\*12/13(火)午後1時30分~、名高裁・第1号大法廷